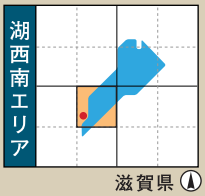
名勝
国指定

居初氏庭園（いそめしていえん）

大津市本堅田町　昭和56年6月11日指定



堅田は、琵琶湖の南湖と北湖を分ける最狭部の西岸にあり、その立地から、琵琶湖の湖上交通を支配する有力な町として栄え、ここに住む人達を「湖族（こぞく）」と呼んでいました。庭園のある居初家は、中世以降、堅田船運の主導的な立場にあった湖族の家です。

当時のできごと	
1592年	文禄の役
1681年	将軍越後騒動裁断
1682年	江戸大火（八百屋お七の火事）

堅田

琵琶湖は、古くから様々な物資や情報が行き交う東西交通の大動脈でした。琵琶湖が最も幅を狭めるところにある町が堅田で、ここからは、琵琶湖を航行する船舶を手に取るように見ることができます。もともと堅田の人達は、京都の下鴨神社に、琵琶湖の魚介を神饌として納める供祭人を努めていましたが、徐々に、琵琶湖全域を自由に通行し、漁業を行う特権を主張するようになり、さらには、地理的な特性を活かし、堅田付近を通行する舟から関銭を徴収する権利や、海賊行為を行わない見返りにお金を徴収する権利を加え、中世末頃には、湖上交通に絶大な権力を振るうようになります（芦浦観音寺跡：学習シートNo.019）。

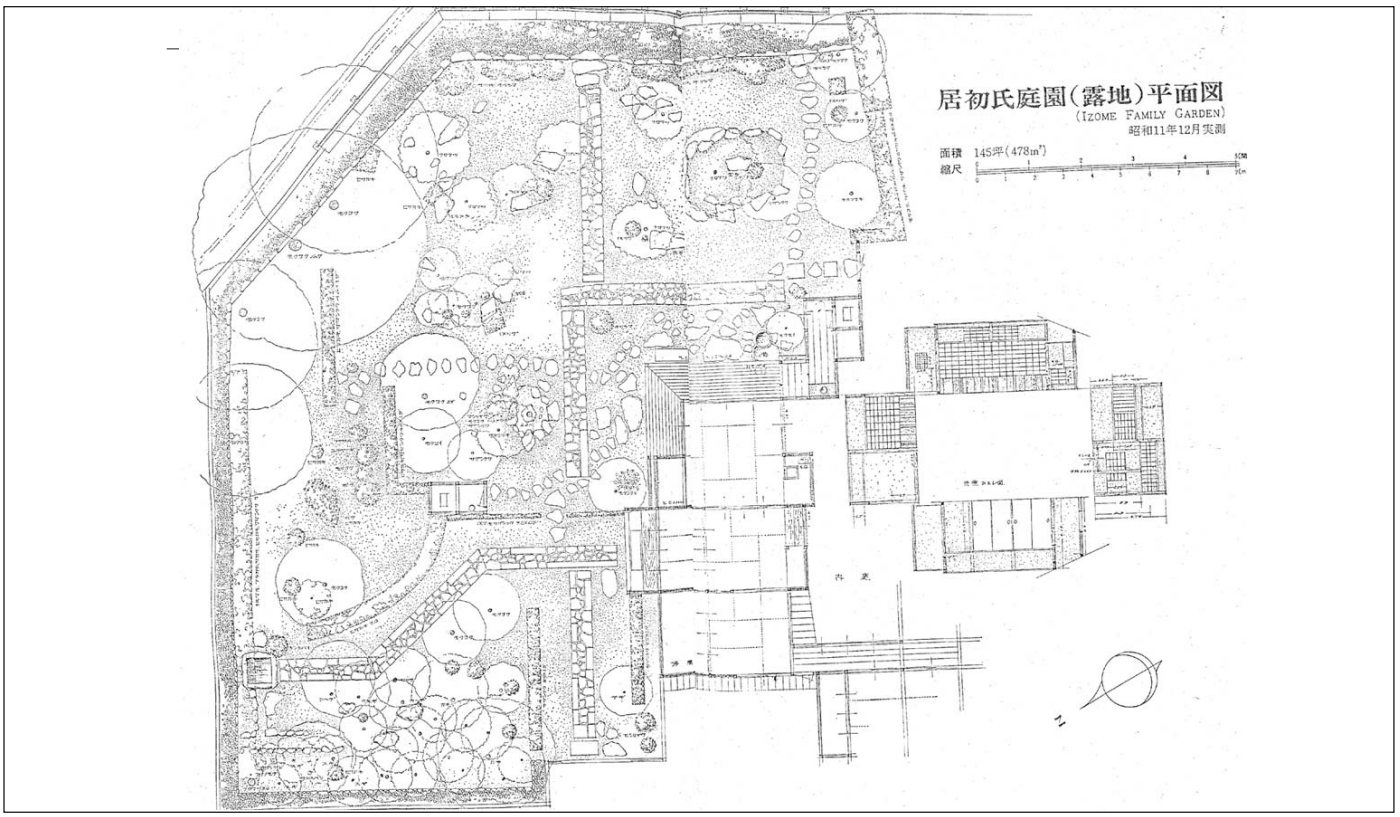
堅田衆（堅田湖族）と居初氏庭園

堅田で活躍した人達を「堅田衆」あるいは「堅田湖族」と呼び、町は自治組織化されていました。そして、堅田衆でも中心的な役割を果たしていたのが、刀禰（とね）家、居初（いそめ）家、小月家の3家でした。堅田衆には、その豊かな経済力を背景に文化を重んじる気風があったようで、多くの文人墨客がこの地に足跡を残しています。

居初家に残される、天然図画亭（てんねんずえてい）と呼ばれる茶室と庭園は、千利休の孫、千宗旦の高弟藤村庸軒（ふじむらようけん）と庸軒の弟子で、茶湯、造園に活躍した北村幽安（きたむらゆうあん）の合作により、天和元年（1681）に作庭されたと伝えられます。



居初氏庭園



居初氏庭園測量図

居初氏庭園

居初氏庭園は、天然図画亭の庭として造られています。天然図画亭は、入母屋造、葭葺きの平入の茶室で、東に客室（茶室）と廻縁があります。茶室には一畳の点前座を設け、客室との間に低い腰板を附けて結界しています。

庭園は、茶室の東側と西側に広がります。幾何学的に配された敷石が庭に縦横に敷かれアクセントとなり、正面には松と石組により亀島を造ります。

この庭の最も大きな特徴は、低く刈り込まれた松を始めとする庭木越しに、琵琶湖と対岸に坐す近江富士（三上山）を借景としていることで、四季折々に、雄大な景観を楽しむことができます。



茶屋から見た庭園

関連する文化財

記恩寺庭園（大津市）	日本画の大家山本春挙が1921年に造った別邸の庭。琵琶湖を借景としていた
堅田出島の灯台（大津市）	堅田地区に残る琵琶湖唯一の灯台。大津市指定民俗文化財

もっと深く知りたい

大津市教育委員会　☎077-528-2638　大津市御陵町3-1

大津市歴史博物館　☎077-521-2100　大津市御陵町2-2

居初氏庭園へのアクセス　JR湖西線　堅田駅下車



【参考文献】〔滋賀県の庭園1～3〕滋賀県教育委員会　〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔大津の文化財〕大津市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月